

市販品を活用した

食支援



座談会

第3回

食支援における
ケアマネジャーの
役割とは

大野 敏矢子さん
食事栄養ケアステーション ケアエイド・パール代表、管理栄養士、
主任介護支援専門員
柳谷 ハルミさん
一番町指定居宅介護支援事業所、主任介護支援専門員
篠原 吉紀さん
つつみ稲荷公園前指定居宅介護支援事業所、管理者・主任介護支援専門員
篠原 真貴さん
グッドライフケア居宅介護支援センター港、管理者・介護支援専門員

食支援で大切なこと

大野 まず、皆さんが現場でどのようなことを意識して、利用者の食支援を考えているのかを教えてください。

柳谷 利用者の摂食嚥下機能が低下している場合、その原因はさまざまです。たとえば、ALSなど神経難病による障害がある、脳梗塞で片麻痺がある、薬の副作用で意識が混濁している……。原因によってアプローチは変わるので、その原因をまず把握するようにしています。その



大野敏矢子さん

ために、適宜医療の力を借りています。特に、主治医に相談したり、見解を聞いたりすることが大切です。

篠原 食べない利用者がいた場合、食べたいのか食べたくないのか、食べられる状況なのか食べられない状況なのか、といったことをアセスメントして、それに見合うサービスを考えます。柳谷さんと同じく、私も医師や看護師などに相談することが大切だと考えます。もちろん、ご本人と話すことが前提ですが。

篠原 食支援を考えるにあたっては、家族の思いが大きく関係するように思います。今までどおり口から食べさせてあげたいと考える家族は多くいます。でも、その一方でリスクもある。これまでの生活なども確認しながら、リスクを最小限にして徐々に食べられるよう、支援のあり方を模索します。そのためには、家族も含め、関係者が足並みをそろえ

要介護高齢者の在宅での食生活を支援するにあたって、ケアマネジャーにはどんな役割が求められるのでしょうか。アセスメントやケアプラン作成のポイントや、市販品の活用方法などを、現場の目線で考えます。



柳谷ハルミさん

ることを意識しています。

柳谷 食べることは生きることだと思うのです。特に、介護が必要な状態になって、自由に出かけられなくなると、食事が唯一の楽しみになる人もいます。だから、家族の気持ちはよくわかります。

アセスメントのポイント

大野 では、ケアプランを考えるにあたって、アセスメントではどんな視点をもっていますか？

柳谷 高齢者の場合、筋力が低下する→出かけなくなる→ますます筋力

が低下する→お腹が空かない→食事が減る→さらに筋力が低下する、という負のスパイラルに陥りがちです。それをいかに断ち切るかが大切です。そのためには、歩行に必要な筋力をつけるなど、摂食嚥下のことだけでなく、広い視点をもたなければなりませんと思います。

篠原 食支援に関する目標としては、「体重を増やす」のようにシンプルに考えています。利用者にかかわる職種は、それぞれの専門性のもとに、食べられるようになるためにアプローチします。ケアマネジャーはそのなかで、橋渡し役として、意見を言いやすい環境を整えることも大切な役割だと思います。

篠原 「以前のような生活に戻りたい」「元気だった頃の母に戻ってほしい」。多くの方がこのような希望をもっているの、それに向かってどう目標設定するか。いきなり元通りにではなく、段階的な支援が大切です。そのためには、ご本人が達成感をもてるような目標を設定し、「じゃあ半年後は……」というように、あくまでも無理をしないことが重要ですね。

市販品を上手に活用する

大野 「何とか口から食べてほしい」



篠原吉紀さん

という家族の思いが強い場合であっても、家族が毎食つくることには大きな負担がかかります。そこで、市販品を活用することも有効だと思うのですが、皆さんはどのように取り入れていますか？

柳谷 たしかに、家族だけで頑張るのには限界があるので、市販品を上手に活用することが、長く在宅生活を続けるためには有効だと思います。私の場合、必要があれば、福祉用具のパンフレットなどをお見せして、「こんな商品がありますが、試してみますか？」とお話ししています。

篠原 私も、家族に疲労がたまるのが心配なときは、市販のムース食などをすすめることがあります。そのときは必ず、私自身が試食したものをすすめます。ただ説明するよりも、「何とか食べてもらいたい」「家族にも少しでも休んでほしい」という気持ちが伝わりやすいかなと、自分では思っています。

篠原 私も同感です。在宅生活を維持するために、市販品の活用は有効だと思います。家族がぎざみ食やペースト食をつくるのは大変です。家族には、市販品を提供することに後ろめたさがあったりしますが、ケアマネからすすめられれば、「これでいいのだ」と安心できると思います。家族の心を軽くするのも、私たちの役割です。

篠原 しかも最近の市販品は形がしっかりしているし、色も鮮やかで、おいしいですね。大和製罐のエバースマイルも食べてみましたが、本当においしかったです。私自身は酢豚が好きです（笑）。



篠原真貴さん

柳谷 エバースマイルは、常温で保存でき、しかもお皿にあげてすぐに食べられる。手軽に使えるのがいいと思いました。

篠原 エバースマイルにはとろみ飲料もありますが、りんご、コーヒー、ほうじ茶、スポーツドリンクなどラインナップが豊富で、利用者が選べるのもいいですね。水分補給は高齢者にとって重要ですが、外出したときなどは、その方に合う形態の飲み物がなくて苦労することもあります。そんなとき、手軽に持ち運べるとろみ飲料は有効だと思います。大野 大切なのは、まず利用者の食生活、栄養状態を見極めることです。そのためには、多職種の連携が欠かせません。そのうえで、食支援については、いろいろな方法を組み合わせるのがよいと思います。家族がつくることもあるでしょうし、配食サービスを利用したりヘルパーにつくってもらったり……。そのバリエーションの1つとして、市販品も大きな力を発揮してくれると思います。

(次号につづく)

エバースマイルのお問い合わせ

0120-266-440
月～金/9:30～17:00
(土日祝日・年末年始・お盆を除く)